

九州オルレ嬉野コース

オルレハイキングコースの由来

オルレという言葉は、韓国の済州島の方言から来ています。韓国語では、通りと人の家の間にある細い道を意味する。このアイデアは、島の海岸全体を覆う一連のウォーキングコースに発展しました。ビーチや小さな村から農場や森まで、さまざまな快適な風景にアクセスすることができます。

済州島コース

済州島には現在、メインルート 21 本とサブルート 5 本の計 26 本のコースがあり、総延長 425km に及びます。コースの難易度は様々で、自分に合ったコースを選ぶことができます。済州オルレ情報センターではパスポートを購入することができ、ルートに沿ってスタンプを集めることができます。

九州オルレのコース

九州オルレは、済州オルレの姉妹版である、九州の 21 のウォーキングコース(2021 年 2 月時点)の名前です。九州オルレはもともと韓国からの観光客を誘致するために作られたもので、一年を通して九州の四季折々の景色を楽しむことができるように設計されています。公式オルレコースとして認定されるためには、各コースは済州オルレ組織によって厳しく規制され、監視されているため、コースが簡単で、様々な体験ができるようになっています。

嬉野コースは、絹のような肌触りの湯で知られる温泉街「嬉野」を中心としたコースです。アルカリ性のお湯は、肌をきれいにして肌を健康にしてくれると言われています。また、茶畑でも知られており、嬉野茶は日本有数のお茶の産地として知られています。

嬉野コースは、肥前吉田焼を展示している肥前吉田焼 窯元会館からスタート。少し坂を上ると、大定寺や吉浦神社があります。

洞窟内に 1000 年前から宿っていたと言われる水の神様「権現さん」や十三仏を参拝するコースを進みます。坊主原パイロット茶園へは、山を背景にした茶畑の風景を眺めながら坂道を登っていきます。晴れた日には、嬉野の陶磁器の原料を運ぶことで知られる有明海を望むことができます。ここからコースは丘陵地帯に入り、22 世紀アジアの森と、100 万年前に絶滅したとされていた「生きた化石」と呼ばれるメタセコイア・グリプトストロボイデス (Metasequoia glyptostroboides) の木立があります。轟の滝は、恋に落ちた二人の神が別れ、再会したという現代人による伝説の舞台となっている聖地です。コースのゴールはシーボルトの足湯で、登山者は絹のように滑らかな温泉で疲れた足を癒すことができます。

キーポイント

嬉野コースは全長 12.5km、所要時間は 4～5 時間。中級者から上級者の方にお勧めです。ルートは標識が充実しています。嬉野コースの方向に頭を向けた馬の形をした「カンセ」と呼ばれる目印に注意してください。木の矢や石に描かれた矢も指示棒として機能します。リボンは 100～200 メートルごとに設置され、歩行者がコースに沿って歩けるようになっています。道標はすべて青と赤で色分けされています。青は標準的な歩行コース、赤は本コースから外れたルートを示しています。